



基本テーマ

読みたい本が いつも子どものそばにある

第五次 長崎県子ども読書活動推進計画を策定！

読書は、子どもたちに知識を与え、想像力や思考力、創造性などを育む重要な営みです。子どもの読書活動をより一層推進するため、長崎県は「第五次長崎県子ども読書活動推進計画」(2024~28年度)を策定。本県で育つ子どもたちのそばに、いつでもどこでも「手に取ってみたい」「開いてみたい」「読んでみたい」と思える本がある環境をつくりあげたいという願いを込めています。



▲詳細は
こちらから

読書活動の現状

幼児期における「家族10分間読書」の実施率UP!

2019年度 **72.7%**

2023年度 **80.5%**

「取り組みが二極化している」「小学校入学段階の子どもたちの語彙(ごい)量に大きな差が生まれている」などの声もある

公立図書館における県民1人当たりの貸出冊数がUP!

貸出冊数

4.7冊

全国 **12位**

九州 **2位**

2020年度社会教育調査

10年前との比較で上昇しているのは、九州では本県のみ!

小中高生1カ月当たりの読書冊数は全国平均を上回っている!

小学生 **15.2冊**

中学生 **5.8冊**

高校生 **3.5冊**

全国比 **+2.6**

全国比 **+0.3**

全国比 **+1.6**

学校段階が上がるにつれて、不読率が高まる傾向は課題

家庭では

出かけよう! 図書館へ

読書の継続には、楽しさに触れることが有効

家庭での読書の継続には、学校や地域にある図書館などを積極的に活用し、読みたい本に出会ったり、進んで読書活動の楽しさに触れたりすることが有効です。



おすすめブックリストを配布

乳児期、幼児期、小学、中学、高校、成人など各段階で薦めたい「長崎県のおすすめブックリスト」を配布。関連する電子書籍やオーディオブックも整備します。



地域では

つながろう! 広げよう! 読書の輪

読書活動ネットワークづくり交流会

学校や図書館をはじめ、福祉、医療、民間団体などの関係者が集まり、相互の実践例を共有。読書活動について、お互いの理解を深めるとともに、子どもの読書を支える人たちのネットワークづくりを進めます。

1

佐世保会場

清水地区コミュニティセンター

日時

7月13日(土)

13:00~16:30

3

新上五島会場

新上五島町石油備蓄記念会館

日時

10月5日(土)

13:00~16:30

2

大村会場

中地区公民館

日時

9月5日(木)

13:00~16:30

3

佐世保会場

申し込みは
こちらから



幼稚園 学校等では

引き出そう! 読みたい 知りたい 伝えたい

子ども読書リーダー養成講座

小学4~6年生、中学生が対象。読み聞かせやビブリオバトルの体験、図書館のバックヤード探検などを実施。認定後は地域の学校や図書館で、読書の楽しさや大切さを広めてもらいます。



申し込みは
こちらから▼



1

大村会場

ミライon図書館

日時

7月24日(水)

~7月26日(金)、

12月7日(土)

13:00~16:30

2

南島原会場

西有家図書館

日時

7月30日(火)

~8月1日(木)、

12月14日(土)

13:00~16:30

3

五島会場

五島市立図書館

日時

8月6日(火)

~8月8日(木)、

12月26日(木)

12:30~16:00

Teacher's File

長崎の学校で生き生きと働く
先生たちにスポットを当てます

今回紹介するのは
壱岐市立芦辺小学校の

西 美里先生

「ありがとう」を大切に



西 美里先生ってどんな先生?

ふるさとの壱岐市で小学校教諭になって11年目。2度の育休を経て4月に復帰し、1年生の担任を務めています。2人の子どものお母さんでもあります。

先生のリフレッシュ方法

おいしいものを食べる。これからの季節は、旬のメロンがのったフルーツタルトが楽しみ。寝る前には、録画した朝ドラを見て「私も頑張ろう」と活力をもらいます。

教員を目指したきっかけは

小学6年生の時の担任に憧れて教師を目指しました。その先生は、私の頑張りを認め、長所を伸ばしてくれました。幼稚園か保育園の先生と、小学校の先生とどちらになろうかと悩みましたが、教育実習の授業で「わかった」と喜ぶ子どもの姿を見て、教えることの楽しさや喜びを実感。小学校の先生になろうと決めました。

この仕事に就いて良かったと思うとき

子どもの頑張っている姿や成長した姿が見られたときです。子どもにももらった「先生の授業が楽しい」と書かれた手紙は「お守り」です。育休から復帰した際には、保護者の方から「おかえりなさい。先生が戻ってくるのを子どもが楽しみに待っていました」との言葉を掛けていただき、とてもありがたかったです。

仕事と子育ての両立で心掛けていることは

子どもはいつ体調を崩すかわかりません。急に休んだ場合、周りに迷惑をかけないため、先を見通して仕事を進め、一人で抱え込まないように心掛けています。助けられた時は「ごめんなさい」ではなく「ありがとう」と伝えるようにしています。同僚や家族の支えは、当たり前ではないことを忘れないようにしたいです。